

2024 年度（令和 6 年度） 特別展 実施要項

仙台市科学館

1 名 称 「恐竜最前線 2024～奇跡の恐竜カムイサウルス～」

2 ねらい

- (1) 本展は、奇跡の大発見と称されるカムイサウルスの生きた時代とその世界をテーマに、“東北初公開”となるカムイサウルス全身骨格や同じ時代の化石標本や等身大の生体復元を展示・紹介し、来館者の興味・関心を高める。
- (2) 太古の生物たちの骨格標本、化石、生体復元等を展示、関連する CG シアターの同時展開、発掘の様子や道具紹介などの様々な展示を通して、白亜紀の古生物について基本的な知識を学ぶ。
- (3) 地球生命の繁栄は、地球上の様々な生物との間の微妙なバランスで保たれており、そのバランスこそが生物多様性である。生命の尊さと大切さを知るとともに、それを支える調和ある環境を未来へ引き継ぐことの大切さを普及・啓発する。

3 開催期間 2024 年 7 月 20 日（土）～同 8 月 25 日（日） 開催日数 33 日間
休館日 7 月 22 日、29 日、8 月 5 日、19 日（期間中休館 4 日間）
（8 月の保守点検は 8 月 22 日（木）から 8 月 29 日（木）に変更する。）

4 会 場 スリーエム仙台市科学館
2 階特別展示室、3 階エントランスホール、2 階第 4 実験室前

5 主催・共催・後援等

- (1) 主 催 仙台市教育委員会
- (2) 主 管 仙台市科学館
- (3) 協 力 むかわ町穂別博物館、むかわ町経済恐竜ワールド戦略室、北海道大学総合博物館、群馬県立自然史博物館、栃木県立博物館、中川町エコミュージアムセンター、むかわ地域商社（株）M Dino
- (4) 後 援 宮城県教育委員会、河北新報社、朝日新聞社仙台総局、毎日新聞仙台支局、読売新聞東北総局、産経新聞東北総局、日本経済新聞社仙台支局、NHK仙台放送局、tbc 東北放送、仙台放送、ミヤギテレビ、khb 東日本放送、CAT-V、J:COM 仙台、Date fm、ラジオ 3FM76.2

6 内 容（別紙 1 参照）

(1) 概 要

近年、日本でも新しい恐竜の発見が相次いでいる。北海道むかわ町穂別で発見されたハドロサウルス類のカムイサウルス（和名：むかわ竜）は、全身の約 80%以上が発見され、日本の恐竜史上において奇跡の大発見となった。本展は、奇跡の大発見と称されるカムイサウルスの生きた時代である「白亜紀」にスポットを当て、東北初公開となるカムイサウルス全身骨格や同じ時代の世界の恐竜標本やアンモナイトなどの環境化石を中心に公開する。

展示は、時代ごとにいくつかのエリアに分ける。カムイサウルスと同時期に生きた、同じ鳥脚類のラプトドンの全身骨格をはじめとし、前期白亜紀では、アジア大陸の羽毛恐竜やティラノサウルス類の進化について、世界最大の羽毛恐竜ユティランヌスの生体復元などを展示し解説をする。後期白亜紀では、アジア大陸で生きていたティラノサウルス類である、アリオラムスの全身骨格を宮城県で初公開し、カムイサウルスと同じ植物食であるサイカニア

やプロトケラトプスの生体復元や全身骨格などの標本を展示し、後期白亜紀の恐竜世界を再現する。

カムイサウルスについては、その発見・発掘の様子から最新の研究まで、全身骨格標本や同じハドロサウルス類の恐竜化石等の展示物や解説パネル、シアター上映を通して紹介する。また、カムイサウルスと同様に北海道で発見されたテリジノサウルス類パラリテリジノサウルスについて、テリジノサウルス類ノスロニクス全身骨格標本や関連標本とパネルにて解説する。

来場者は、白亜紀の生態系や最新の恐竜研究について知ると共に、生物多様性について考え、恐竜の謎を解き明かすことが、人類自身が持続可能な世界を考える上でも重要なテーマとなることを学ぶことができる。

(2) 展示・体験内容（別紙1参照）

I 2階特別展室【展示・体験】

以下のように展示エリアを8つ設ける。

①「プロローグ：恐竜最後の時代 白亜紀!？」

恐竜の誕生ヒストリーとともに、恐竜の生きた時代である中生代、そして恐竜最後の時代「白亜紀」に関して学習しながら、カムイサウルスの生きたおよそ7200万年前の後期白亜紀の世界を知る。同時期に生きた同じ鳥脚類のラブドンの全身骨格を宮城県初公開する。

②「前期白亜紀のアジア大陸の恐竜～約1億1000万年前頃～」

カムイサウルスが生きた時代の前の時代である「前期白亜紀」に、アジア大陸において多様化した恐竜たちを紹介する。様々な羽毛恐竜などの生態を通して、ハドロサウルス類について知る。また、羽毛を持つティラノサウルス類の進化にもスポットを当て、世界最大の羽毛恐竜ユティランヌスの生体復元（全長9m）などを展示する。

③「後期白亜紀のアジア大陸の恐竜～約7000万年前頃～」

カムイサウルスの生きた約7200万年前の後期白亜紀に、アジア大陸に生きた様々な恐竜たちを紹介する。同時代にアジア大陸で生きていたティラノサウルス類であるアリオラムスの全身骨格を宮城県初公開する。また、カムイサウルスと同じ植物食であるサイカニアやプロトケラトプス、獣脚類コンコラプトルなどの恐竜の生体復元や全身骨格などの標本を展示し、後期白亜紀の恐竜世界を再現する。

④「恐竜と歩こう」

恐竜の歩行やハンティングについてのシルエット動画を上映する。また、カムイサウルスが海に流される様子を再現した撮影スポットを設け、来館者が自由に恐竜と歩いたり記念撮影したりすることができる。

⑤「奇跡の恐竜“カムイサウルス”の発見」

カムイサウルスの発見と研究をテーマに、東北初公開となるカムイサウルスの全身骨格を中心に、カムイサウルスの発掘と詳しい研究成果を紹介する。発掘の様子を、当時の用具や写真と共に詳しく解説する。また、同じハドロサウルス類の恐竜であるエドモントサウルスの展示や恐竜CGシアターを通して、その生態や東アジアにおける独自の進化について解説する。

⑥「謎の恐竜テリジノサウルス」

北海道中川町で発見された、新属新種「パラリテリジノサウルス・ジャポニクス(日本の海岸に棲むテリジノサウルスという意)」について、アメリカで発見されたテリジノサウルス類のノスロニクスの全身骨格などを展示し、その全体像を紹介する。

⑦「恐竜の絶滅」

およそ 6600 万年前のユカタン半島での巨大隕石の衝突の影響を受けて、どのような環境変化が恐竜を含む様々な生物を絶滅へと導き、そして、その後の鳥類や哺乳類の大繁栄へ導いたのか。最新研究を基に、恐竜絶滅の謎の要因に迫る。

⑧エピローグ：～未来へつなげ、恐竜ハンターの夢と希望！～

恐竜ハンターが広大な砂漠や荒地から発見する貴重な恐竜化石は、異常気象や砂漠化などの地球環境問題への対策の手がかりをもつタイムカプセルと考えられている。恐竜研究から生物多様性について考え、「恐竜」の謎を解き明かすことは、私たち人類自身が持続可能な世界を考える上でも重要なテーマとなることを、解説パネルや古生物学者からのメッセージパネルで解説する。

II 3階エントランス【展示・体験】

①「恐竜牧場」

エントランス内の恐竜牧場スペースを自由に散策する。牧場内には、カムイサウルスのバナーやカムイサウルスの大腿骨、段ボール恐竜、アロサウルスの生体復元模型、足跡モデルを展示し、自由に写真撮影ができるスペースとする。また、入り口では小学生までを対象に、恐竜の着ぐるみを貸し出す。

②「恐竜が生きた時代の県内の化石」

仙台市科学館で所蔵する、中生代の化石標本を展示する。三畳紀のウタツサウルスやアンモナイト化石を紹介する。

III 2階第4実験室【体験】

①恐竜ペーパークラフト

頭にかぶることができる、ティラノサウルス頭骨のペーパークラフトづくりを体験する。自由に色を塗り、かぶって特別展や常設展を観覧できる。

7 関連イベント

特別展への関心を高めるために、以下の関連イベントを開催する。

(1) 恐竜最前線 2024 講演会①

講師 北海道大学総合博物館 小林快次教授 7月27日(土)

(2) 恐竜最前線 2024 講演会② (予定)

講師 福島県立博物館 吉田純輝学芸員 8月3日(土)

(3) 化石レプリカ作り教室

8月9, 10日(金土)

(4) 化石鑑定会

8月11日(日)

(5) カムイサウルスカード (予定)

入口にて常時配布

8 効果

カムイサウルスが生きた「白亜紀」の環境やその様子を想起し、様々な体験を通して新たな発見を促し、古生物への興味・関心を高めることが期待できる。来館される皆さまの科学に関する興味・関心を高め、幼児から高齢者までの生涯にわたる科学の学習を支援し、広く市民の皆さまに学ぶ機会を提供することができる。

9 運営・広報等

(1) 展示室内にインストラクターを配置し、見学者への解説や誘導を行い、展示内容を理解してもらえよう工夫する。

(2) 市政だよりをはじめ、テレビや新聞、SNS、HP等での広報を積極的に行う。

(3) ポスター、リーフレットを制作し、主に市内幼稚園・保育園、小中学校・高校・大学、市内

各施設及び宿泊施設等に配布・掲示する。特に小中学校については、宮城県内全ての学校に配布する。また、東北地区の科学館等の施設にポスターおよびリーフレットを配布する。

(4) 売店では、関連グッズなどを扱うよう要請する。

10 レイアウト案

- (1) 2階特別展示室 (別紙2参照)
- (2) 3階エントランスホール (別紙3参照)
- (3) 2階第4実験室前 (別紙4参照)